



なみの会



東京理科大学工学部建築学科
地震工学系研究室 OB/OG会

会報
2019年8月号(第6号)

春の叙勲の栄に浴して 井口道雄



1940年 生まれ
1964年 早稲田大学卒業
1966年 同大学院修士課程修了
1969年 イタリア留学(イタリア政府留学生)
1970年 早稲田大学大学院博士課程退学
1971年 東京理科大学工学部専任講師
1974年 東京理科大学工学部助教授
1978年 Univ. of Calif. San Diego客員研究員
1985年 東京理科大学工学部教授
2009年 東京理科大学名誉教授
2019年 瑞宝小綬章叙勲

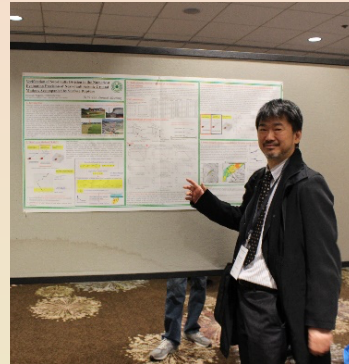
元号が令和に改元されて間もなく、文部科学省から大臣名で瑞宝小綬章の授与が決定した旨の通知を頂いた。この知らせを身に余る光栄なことと思う一方、欲とか栄誉とかいうものをかなり捨てた積りであった中の受章に、「なぜ私に」という若干の戸惑いもあった。授章の対象となったのは、教育研究における功績とのことであるが、おそらくは教育面と研究の功績の合わせ技ということであろう。

教育における功績と言われると少々面映ゆい思いをしないでもない。大学における教育は“口出しをしないのが最善の教育法”と常々考えていて、これといった教育上の功績というのが思い当たらないからである。よくよく考えてみると、長い期間大学に身を置いてきた関係で、多くの人材を社会に送り出してきた。こうした理科大OB・OG諸氏の社会での活躍があって、この事が教育面における功績と認められたと見るのが自然で納得がゆく。これは理科大にとっても私にとっても誠に光栄なこと、心から卒業生の皆さんに感謝しなければならないと思う。

(次ページに続く)

4ページに7月に開催された「叙勲を祝う会」の様子を特集として掲載しています

平成を振り返り 永野正行



1964年 生まれ
1986年 早稲田大学卒業
1988年 同大学院修士課程修了
1988年 鹿島建設入社
2008年 東京理科大学工学部教授
現在に至る

2013年 日本建築学会賞(論文)受賞
2017年 日本学術会議連携会員

2019年4月に米国・シアトルで開催された米国地震学会大会にて

約30年続いた平成の時代が終わり、5月に新しい時代・令和になりました。平成時代には1995年兵庫県南部地震、2011年東日本大震災を含む大地震、津波をはじめとする多くの大災害が発生し、「災害の時代」とも称されます。平成元年は大学院修了後、私が鹿島建設に入社してちょうど1年目と重なっております。その後、博士取得を挟み、民間で20年、大学で11年を過ごした私にとって、平成は人生の中で最も重要な時代となることは間違いありません。

鹿島建設での配属先は小堀研究室という地震工学や制震開発を専門とする研究所でした。修士では動的問題や地震動を扱ったことがなかったので、分からないことが山のようにありました。入社1年目は、当時設計中であった制震ビルの解析モデル作成や、千葉県に建つ55階建ての超高層建物の振動解析に取り組んでいました。2年目でグループを移動し、建物・地盤との動的相互作用や地盤震動に取り組むことになりました。グリーン関数の式展開を見たときには、目の前が真っ黒になった記憶があります。学生の皆さんも今は分からないことが多いかと思いますが、焦らず一つずつ理解していけば何とかできるかと思えます。

(次ページに続く)

もう一つの評価の対象は研究に関する功績であるが、これまでの研究成果が本当に社会や人々のために資するところがあったかと問われると、こちらの方も心もとない。これまで研究目標を設定する際に、それが社会や人々のためになるか否かという観点で決めて来たことはなく、第一義的にはその問題が未解決で、取り組む価値があって面白いかどうかという、むしろ興味の有無を優先して課題設定をしてきたからである。専ら取り組んできたのは、耐震工学の一分野である「建物と地盤の動的相互作用」に関する研究である。歩んできた50年近い研究生活の中で、主に学会等の活動を通してこの分野の研究では先導的役割を担ってきたと思っている。また、発表してきた研究成果は、有り難いことに評判が良く、多くの研究者が参考にしてくれていて、この分野の学問の進展にいささかなりとも寄与できたのではと密かに自負している。

今回小さな勲章を受章し、一つだけ困ったと思うことがある。半世紀近い研究生活において私は、多くの研究仲間と巡り合い、時にはライバルでもある同好の士と切磋琢磨しながら、恵まれた環境の下で育てられてきた。その研究仲間からは、幾分揶揄めいた呼び方ではあるが、時となく「無冠の帝王」と呼ばれて来た。すっかり慣れ親しんだ呼び名であるが、この度の受章でこの名を返上しなければならなくなった。親しみを込めてそのように呼んでくれた人たちには、まことに申し訳ない気持ちである。

国立劇場での授章式後、場所を皇居に移し賓客用の大広間である豊明殿において天皇陛下に拝謁しお言葉を賜った。これまで国や社会と人々のために尽力されたことに対する労いと、これからも健康に留意してお過ごしくださいとのお言葉であった。少し高揚した気分でお言葉に耳を傾け、これまでと同様マイペースで学問の発展にいささかでも寄与したいと思いを新たにした次第である。

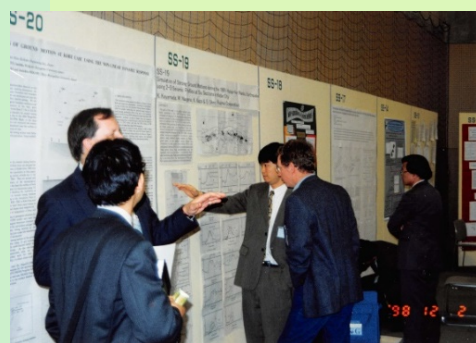
研究キャリアの中で特に大きな出来事は、やはり1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震であります。当時は入社7年目でした。朝、会社に出勤してテレビで映される光景は、衝撃的なものばかりでした。地震発生後、3カ月後に現地を調査する機会を得ました。今もそうですが、現地の状況は、実際に見てみないと分からない部分も多いかと思います。神戸中心部を山側から海側まで歩いた場合、被害の状況が場所によって大きく異なっていました。いわゆる『震災の帯』です。震災後の速報等で聞いておりましたが、改めて実際に見てみると、高々100m離れた地点で被害の様子が大きく異なっている状況はやはり驚きでした。地盤構造の影響が大きいことは事前の検討で把握しており、その重要性を改めて認識しました。これらは、その後のFEM、震源断層による理論地震動の計算法や、3次元解析への展開の契機となっており、現在の研究室における地震動研究のベースとなっております。

地震発生2年後に、神戸再開発の一環として、兵庫駅前の37階タワーマンション建設の計画、設計のプロジェクトに関わることになりました。当時は「震災の帯」に関する研究も進めていたこともあり多忙な時期でしたが、建物のモデル化、非線形応答、地盤震動、動的相互作用との関係を学ぶうえでとても貴重な機会となりました。またこの建物で強震観測も実施しこれがご縁で都市基盤整備公団(現在のUR)と共同研究を進めることになり、現在の研究室における超高層研究の基礎となっております。

令和の時代には、何が起きるのでしょうか。2011年東日本大震災の長周期地震動問題、2016年熊本地震の地表断層近傍の地震動など、大きな地震が発生するたびに、思いもよらない揺れや被害が発生します。1つ1つ丁寧に解明することが将来の減災に繋がると信じて、当研究室での活動を続けていきたいと思っています。



【瑞宝小綬章】



【平成の思い出①1998年国際シンポでの発表の様子】



【平成の思い出②1998年学位授与式】

第4回なみの会 2018年9月22日(土) 開催報告

2018年9月22日(土)に第4回なみの会(井口研・永野研OB/OG会)が開催されました。なみの会は、第1回(2014年9月)、第2回(2015年9月)と同様に今回の第4回なみの会も神楽坂の森戸記念会で行われました。ありがたいことに井口研第1期生から永野研現学部生まで多くの方々が出席されました。

研究発表会(15:30~)では、井口研博士号取得者の本間祐介氏・木田英範氏、永野研社会人学生の飛田喜則氏から各々の研究紹介がありました。本間祐介氏からは熊本地震による杭被害事例と杭の二次設計に向けての取り組みの研究報告がなされました。木田英範氏からは回転慣性質量ダンパーの制震効果と、液圧で駆動する歯車モータを利用した回転慣性質量ダンパーの開発の取り組みについて研究報告がなされました。飛田喜則氏からは傾斜基盤を有する地盤上に建つ免振建物の振動特性の研究報告がなされました。

最後に懇親会(18:00~)が永野先生のあいさつを皮切りに開始されました。各人の近況が報告され、現永野研の学生とOB・OGの方々とも交流を深めることができ、濃密な時間を過ごすことができました。(M1唐津)



【研究報告をしていただいた本間氏(左), 木田氏(中央), 飛田氏(右)】



【懇親会の様子】

井口道雄先生 瑞宝小綬章叙勲 叙勲を祝う会 2019年7月21日(日) 開催報告

2019年7月21日(日)に井口道雄先生の叙勲を祝う会を開催いたしました。今回の受勲は井口先生の長年にわたる教育研究に関する功労が評価されたものということで、OB・OGにとっても、非常に名誉あることと考えています。

祝う会は、井口先生ご夫妻をお招きして、東京・湯島にある東京ガーデンパレスで開催され、井口研究室OBを中心に、永野先生をはじめとする永野研究室・スタッフのみなさん、そして井口先生が開発アドバイザーを務めておられる(株)アイ・エム・エーの関係者のみなさんをあわせ、全国から総勢33名のみなさんにお集まりいただきました。

乾杯の挨拶ののち、しばし歓談の時間をとった後、井口先生に叙勲にまつわるお話をいただきました。少し照れ臭そうに、でもちょっとだけ誇らしげにお話しただく先生の姿を見て、「現役時代とほとんど変わらない」とか「やはり井口先生らしいな」とお感じになられたみなさんも多かったのではないのでしょうか？

続いて、井口研究室OBの何名かの方々に、そして(株)アイ・エム・エーの方々からもお祝いの言葉をいただきながら、ご参加いただいたみなさんと井口先生との、そして参加者間の会話も弾み、交流を深めていると、あっという間に時間が経ち、祝う会も終盤を迎えました。

終盤のイベントとして、井口先生ご夫妻に記念品と花束の贈呈を行いました。花束のプレゼンターは永野研の助教である王さんをお願いしました。最後は、永野先生に中締めのご挨拶をいただき、全員の記念撮影で幕を閉じました。

最後に、「井口道雄先生の叙勲を祝う会」が皆様のお陰で素晴らしい会となったこと、幹事一同、改めて感謝いたします。(1991院卒 淵本)



井口先生ご夫妻と永野先生



これが、リアル勲章！



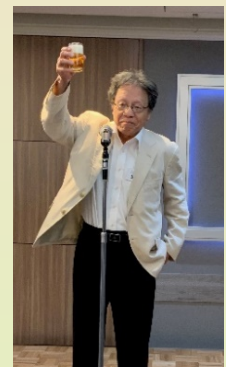
勲章はこのようなケースに収められています



会場の雰囲気は、こんな感じでした



司会進行をご担当いただきました栗飯原さん



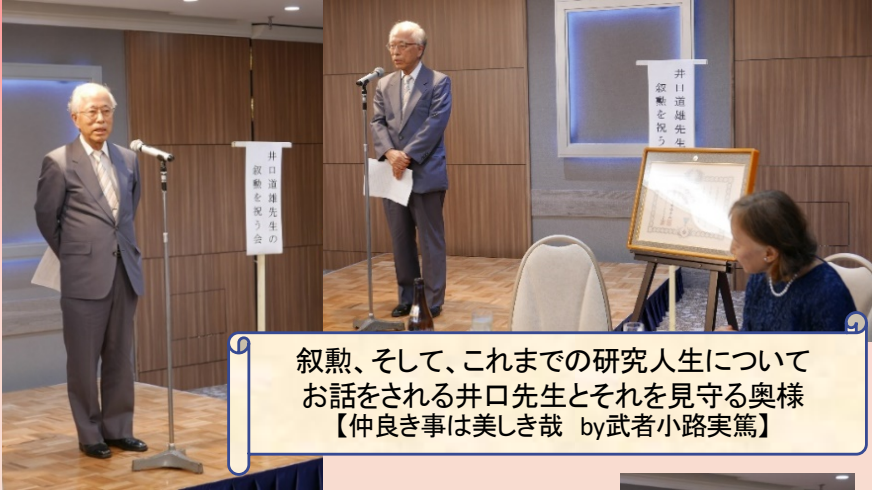
乾杯のご発声いただきました長場さん



生まれて初めて見る「勲章」にテンションが上がる参加者たち



井口先生ご夫妻とご参加いただいたみなさん



叙勲、そして、これまでの研究人生についてお話をされる井口先生とそれを見守る奥様【仲良き事は美しき哉 by武者小路実篤】



花束を贈呈していただいた王さんと井口先生ご夫妻

井口先生ご夫妻への記念品は、SWAROVSKIのクリスタルペア「シルクハットのクマさんが井口先生で、花束を持つクマさんが奥様」という設定です。祝う会に出席できず、記念品のみでの参加となった方が、14名おられます。この場を借りて、記念品を披露させていただきます。



ご挨拶いただいたIMA代表の新熊さん



談笑する井口先生ご夫妻と幹事代表の涌井さん

◆ ◆ 叙勲を祝う会に出席された方、そして残念ながら出席できなかった方からのメッセージ ♡♡

井口先生、奥様この度の叙勲、心からお祝い申し上げます。先生との出会いは、どうやらこうやら4年生になった47年前、当時2号館4階の先生の研究室に何の考えも無しに、ふらふらと迷い込んだ事がきっかけであった様に思います。理科大に赴任したばかりで殺風景な研究室で、ぼそぼそと初対面の挨拶を交わしたことや多分初めての卒研をもったことで少し嬉しそうな様子だったことを昨日の事のように覚えていません。先生の期待に反し勉強しなかった事、今更ながら深くお詫び申し上げます。このことは不詳の一期生としてお許し下さい。ともあれ長い年月が経ち、先生の指導力、教育力、研究力、忍耐力の成果が今日の結果につながったという事を思えば、必ずや先生の弟子たち後継研究室に引き継がれることを確信しております。先生、ますます元気で長生きして研究に励んでください。(1972卒 長場恵)



井口先生、栄えあるご受章、誠にありがとうございます。先日、7月21日のお祝い会に参加させていただき、先生の元気なお姿に安心いたしました。また、ご挨拶で、今回の受章は先生御自身だけでなく、井口研の卒業生の功績によるものだとおっしゃられたこと、うれしく思うとともに、身が引き締まる思いでした。私は、中部電力に勤めておりますが、この7月から原子力建築部門へ異動になりました。電力業界、特に原子力を取り巻く状況は、依然として厳しいものがありますが、真摯に取り組んでいきたいと思っております。これからもお身体に気をつけて、お元気で過ごしてください。(1996卒 平木隆文)



井口先生、瑞宝章受章おめでとうございます。振り返れば、井口研究室の卒研生・院生として学んだのが、ほぼ40年前ですが、当時とお変わりなくお元氣と拝察いたします。福島県に就職した後も、論文発表時の御指導や数々のお声掛、東日本大震災後の福島復興に携わる私にお気遣いをいただきました。院生時に、「本を数多く読みなさい」と御指導を頂きました。今思うと私の話し方や文章が簡潔的確に本題を伝えられていなかったことから、社会生活を営む上で最も重要な能力の一つである伝達力を本の構成やプレゼンの流れから学ばせようとする的確な御指導をいただいたと感謝しております。お陰様で、現在(一財)福島県建築安全機構(構造計算適合性判定機関)の専務理事に就いています。今後も我々は基より若い学生達を御指導し続けてくださいますようお願い申し上げます。(1980年卒 古河司)



このたびは、井口先生の叙勲受章、おめでとうございます。井口研の卒業生として、本当にうれしく思います。連絡いただきましたお祝いの会に出席できませんが、井口先生のお祝い事のため、何か協力させていただきたく記念品のみでの参加とさせていただきます。(1988卒 石田雅基)

この度は、井口先生の叙勲を祝う会についてお報せいただきありがとうございました。是非とも出席したいところですが、所用により出席することができないため、記念品のみでの参加とさせていただきます。井口先生にもよろしくお伝えください。(2001卒 高崎拓也)

瑞宝小綬章の栄誉を受けられ、おめでとうございます。これも一重にこれまでの先生の努力の賜物と存じます。私が2人の佐々木君と3人で研究室でお世話になった頃に思いを馳せると、色々頭に浮かんできます。例えば、「宮宅君、夏休みに休めるとしてんの？」と言われた時は、他の文系に通っている友人達と比べて残念がったものです。また、助手の森下さんも一緒に4人で飲みに行っていたことも懐かしく思い出されます。今後は、お祝いの席での挨拶で仰っていたように、後進の指導に励んでいただきたい、と存じます。(1976卒 宮宅勇二)



井口先生 叙勲おめでとうございます。私は人材不足の折、未だゼネコンに在職しております。卒論テーマは、『模型実験による入力地震動の測定』でした。メンバー4人は考えることが苦手な全員体育会系で、井口研とは対極の位置に居ましたが、模型実験というテーマで井口研を選びました。構造実験棟の隅に、井口先生設計の多相加振機というのが有り、その上に建物模型を乗せて位相差を測定するという実験です。多相加振機を初めて稼働させ、第一歩を刻んだというのが思い出です。これからもお元気で、「戴冠の帝王」として、幸せな研究者としてご活躍下さい。(1977卒 藪内昭男)



令和元年春の叙勲において、瑞宝小綬章の栄誉をお受けになられたこと、お慶び申し上げます。先生に教え導いてもらうことは光栄なことなのだと改めて認識したしいです。振り返ると、学部4年生で井口研に入り、以降35年も経ってしまいました。この間、理科大で非常勤講師をさせていただいたばかりでなく、MASA建築構造設計室での木造制振開発、さらに昨年、会社を移ってから、木造制振の開発などに継続してご協力いただき本当にありがとうございます。これからも末永くご教授いただきたく、先生ご夫妻におかれましてはご健康に十分ご留意いただければと思っております。(1985卒 涌井栄治)

1971年春は卒論を選ぶ時期でした。大学紛争により閉鎖された計画系研究室があった為、計画系志望なのに指導が行き届く



応募の少ない構造系研究室を選びました。それが先生との出会いとなりました。先生は論文の基本を指示された後は「学生を見守る方針」だったらしく、トラブルの壁を自ら突破する経験が出来たと今は考えています。その後私は建設コンサルに勤務し建築設計だけでなく、仕事に恵まれ土木・都市計画等が絡み開発事業にも携わることが出来ました。仕事は相変わらず壁ばかりの日々でしたが、卒論の経験が生かされたと思います。今回の叙勲は、先生の地道な努力と優しい人柄に光があてられたうれしい出来事でした。(1972卒 久郷寛芳)

井口先生、この度の叙勲、心よりお慶び申し上げます。門下生として一技術者として大変励みになります。学生時代に先生に出会って「構造」に開眼し、その後19年間勤務していた久米設計では、東京と大阪で若くして様々な経験をさせてもらい、耐震偽装事件後の法改正対応のため勤務した福岡で退社、現在、構造設計事務所を主宰して7年目になります。極めて順調です！自分を取巻く状況に流されながらも、結果として生活と仕事がバランスした今の生活に大変満足しています。どうも私は昔から運が良いようです。先生をはじめ、人に恵まれています。特に最近そう実感しています。(1993院卒 小林弘典)



井口先生、叙勲おめでとうございます。卒業年次を確認し、研究室に入ってから早15年が経過していることに驚きを禁じ得ませんが、今後もまだまだ先生のお知恵をお借りしたいと真面目に考えております。九州大学に着任し、研究室を運営し始めてから3年が経ち、第1期生が数ヶ月前に修士課程を修了しました。研究面・教育面共に半人前を実感する日々ですが、私が井口先生にして頂いたように、研究を面白いと感じてもらいたい気持ちを持って、学生と共に研究を進めています。福岡にお見えになる機会があれば、是非お声掛けください。今後とも宜しく願い申し上げます。(2007院卒 佐藤利昭)



成島慶氏 日本地震工学会 2019年度奨励賞受賞!!

2017年に永野研究室で修士課程を修了した成島慶氏(鴻池組)が『国内に建つ超高層集合住宅の大地震時における最大平均層間変形角の推定と簡易評価』で、2018年日本地震工学会論文奨励賞を受賞しました。当該賞は、表彰年の前年の12月31日までの2年間に日本地震工学会論文集に地震工学および地震防災に関する論文を公表し、優れた研究により地震工学および地震防災の分野で顕著な業績をあげたと認められた満35歳以下の研究者に授与されるものです。

【ひとこと】

この度は、日本地震工学会論文奨励賞という名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄です。本論文は永野研究室に在籍していた時に書いたもので、永野先生、鈴木先生(現:森林総研)、共著者の皆様より頂いた多くのご指導・ご助言のおかげで受賞することができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

研究者としてまだまだ未熟者ですが、これを励みにさらに研究に精進して参りますので、ご指導ご鞭撻頂ければ幸いです。今後ともよろしく願い申し上げます。(成島)



【略歴】

- 1992年 千葉県生まれ
- 2017年 東京理科大学大学院 理工学研究科建築学専攻修了(永野研究室)
- 2017年 鴻池組技術研究所入社 現在に至る

2019年度永野研究室メンバー

2019年度は本研究室に合計8名の新卒研究生が配属されました。社会人D, M1, M2を含め、全部で24名となっています。卒論, 修論, 大会発表, 論文作成を通じ, 学生を指導していきたいと考えております。OB・OGの皆様にも各種ご指導いただければと考えております。



【新卒研究生配属時の集合写真(2019.4)】

学年	氏名	研究テーマ
社D3	飛田 喜則	免震
社D1	森清 宣貴	相互作用・観測
M2	片岡 卓也	地震動・長周期
M2	貴堂 峻至	地震動・理論
M2	菅原 和正	木造
M2	田村 彩女	上下相互作用
M2	岡部 俊	非構造
M2	西浦 遼	免震
M2	羽津本 晃一	免震
M2	村田 将一	超高層RC・パルス
M1	朝比奈 諒	超高層・ロッキング
M1	唐津 啓樹	超高層・行動
M1	小口 智弘	地震動・長周期
M1	渡邊 哲志	超高層・波動
M1	密田 岳秀	超高層・相互作用
M1	高平 友博	免震
B4	亀卦川 智哉	超高層RC
B4	飯田 里緒	超高層・相互作用
B4	カザウイ 桜	超高層・相互作用
B4	菊池 映見佳	非構造
B4	鈴木 健太	超高層RC
B4	チョウ ソウ	超高層RC
B4	平野 一郎	免震
B4	藤本 拓実	免震
B4	ル シオシェン	地震動

新D1の自己紹介

【ひとこと】

今年度から社会人博士後期課程として永野研究室にお世話になっております。

学部・大学院修士課程も東京理科大学工学部建築学科に在籍し, 北村研究室で構造ヘルスマonitoringに関する研究を行ってまいりました。

鴻池組入社後は, 7年半構造設計に従事した後, 現在は技術研究所に所属し, 構造関係の研究開発を行っております。博士課程後期での研究テーマは「軟弱地盤に建つ超高層建物の強振動記録に基づく動的特性および動的相互作用に関する研究」です。

弊社では長年にわたり地震観測を実施しており, 関西地域では約30年間の観測で兵庫県南部地震を経験した建物もあります。

それらの建物では, 上部建物に加えて地表や杭先端にも地震計が設置されていますので, 地盤-杭-建物の動的挙動や動的相互作用効果を把握し, 構造設計へのフィードバックを念頭に, 杭・上部建物の動的挙動や応力状態を解明していきたいと考えております。

今後ともよろしくお願ひ致します。(森清)



【略歴】

- 1981年 広島県生まれ
- 2006年 東京理科大学大学院
理工学研究科建築学専攻修了
- 2006年 鴻池組入社
現在に至る

永野研究室2018年度ゼミ合宿 in 女川

2018年度のゼミ合宿は、9月4日から8日の5日間にかけて、宮城県仙台市・女川町で行われました。初めの3日間は、東北大学で開催された日本建築学会大会を聴講しました。企業の方々も多い中、自分の研究について堂々と発表し、的確な受け答えをする先輩方の様子はとても参考になりました。来年、自分達が発表する姿をイメージすることができ、貴重な経験となりました。大会最終日の夜は、研究室のメンバー全員で慰労会を行いました。先輩方は、お互いの発表について意見を交し合っており、とても参考になりました。

7日は、仙台駅からバスで女川町へ移動し、女川原子力発電所を見学しました。女川原子力発電所は、2011年東北地方太平洋沖地震時に、震度6弱を観測し、最大津波高さ約13メートルを記録しましたが、原子炉3台共に安全な状態であることが確認されました。震災発生後には、周辺住民の避難所の役割を果たした原発でもあります。見学では、震災の経験を踏まえた、さらなる安全確保のための対策や、訓練実施体制の強化等、様々なリスクに備えた考えを学びました。

最終日の8日には、女川町まちなか交流館で4年生による中間発表が行われました。4年生にとっては、初めての発表となり、緊張しながらも、4月から取り組んできた研究の成果を研究室のメンバーの前で発表しました。先生方や先輩方からの質疑に対し、的確に受け答えをすることができず、たじたじになってしまう場面もありました。しかし、研究目的や発表の仕方、今後の研究の課題などといった沢山のアドバイスをいただき、4年生一同多くのことを学び、成長することができました。ゼミ合宿を通して、学術的な勉強となっただけでなく、研究室のメンバーとの仲が深まり、貴重な時間を共有することができました。

2019年度の日本建築学会大会は金沢大学で開催されます。自分達の研究発表が後輩の良い手本となるように、精一杯頑張ります。ゼミ合宿では、岐阜県の白川郷を観光後、名古屋大学減災館を見学する予定です。世界遺産である白川郷は、日本の原風景を堪能できるとあり、外国人観光客にも大人気です。名古屋のグルメと言えばやはり味噌カツでしょうか。是非堪能したいと思います。今年度のゼミ合宿が楽しみです！！(M1 朝比奈)



【大会発表終了後の様子】



【女川原子力発電所にて】



【バーベキューにて】

永野研究室2018年度活動(抜粋)

2018.4.9新卒研究生配属／4.13研究室歓迎会／5.18逗子免震建物微動計測／6.4前田建設工業技術研究所見学／6.15世界地震工学会議(テッサロニキ)／7.6-9台湾花蓮微動計測およびアンケート調査／7.19大阪府北部地震アンケート調査／7.28防災リスク管理コース発表会(M1,M2)／8.20木質構造国際会議／9.4-6日本建築学会大会・東北／9.5地域交流会／9.7-8ゼミ合宿・仙台, B4中間発表／9.22第4回なるの会／9.26第20回超高層地震観測合同研究会／10.9日本地震学会／11.2地盤震動シンポジウム／11.9大林組技術研究所見学／11.30竹中工務店技術研究所見学／12.6-8第15回日本地震工学シンポジウム／12.20研究室忘年会／12.25-27台湾東華大学訪問／2019.2.4卒論提出／2.7修論提出・震災技術展／2.13卒論審査会／2.14修論審査会／2.16防災リスク管理コース修論発表／2.27第21回超高層地震観測合同研究会／3.19学位・修了証書授与式・研究室打ち上げ



【卒論審査会にて】

2018年度学生表彰 (受賞時の学年を記載)

おめでとう

神戸寛史(M2)

修士研究奨励賞・優秀賞 **受賞**
防災リスク管理コース・フジタ賞 **受賞**
第15回日本地震工学シンポジウム
若手優秀発表賞 **受賞**



【神戸君】

学会や学内の発表において、研究成果をこのように評価頂けたことを大変嬉しく思います。研究の遂行に当たり、石原先生、永野先生、王先生には多大なるお力添えを頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。これからも、より一層精進する気持ちで臨んでいきたいと思っております。(神戸)

日野浦雄高(M2)

修士研究奨励賞・最優秀賞 **受賞**
北村春幸賞・最優秀賞 **受賞**

この度は、大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。永野先生をはじめとして、多くの方々に恵まれていたからこそいただいた賞であります。学生生活の最後にいただいたこともあり、感慨深い思いでいっぱいです。大学での学びを感じながら、この賞に恥じないように努めて参ります。本当にありがとうございました。(日野浦)



【日野浦君と北村副学長】

徳永大地(B4)

卒業論文賞 (通年コース)・最優秀賞 **受賞**



【徳永君】

私は「超高層RC造建物の非線形特性のばらつきを考慮した地震応答性状」という題目で卒業研究に取り組みました。このような評価をして頂けたことを光栄に思うと同時に、私自身の要領の悪さから、多大な迷惑をお掛けしてしまったにも関わらず、丁寧なご指導を頂いた永野先生、王先生、肥田先生、様々なアドバイスを下さった先輩方、同期の皆様に感謝申し上げます。(徳永)

2018年度日本建築学会大会・

若手優秀発表賞 **受賞**

「構造部門木質構造分野」

菅原和正(M1)

「構造部門振動分野」

片岡卓也 貴堂峻至 村田将一(M1)

2018年度建築学会全国大会において、30歳以下の研究者の優秀な発表に対して与えられた賞で、永野研究室では4名の受賞がありました。発表タイトルは以下の通りです。「粘弾性制震装置を付加した木造軸組架構の力学的挙動と簡易評価法 その1 木質制震架構の面内せん断実験」(菅原)、「生駒断層帯を地表断層と想定したときの大阪平野における地盤増幅特性」(片岡)、「2つの破壊過程による2016年熊本地震本震時の震源近傍における強震観測記録の再現と深部・浅部破壊の影響 その2 特性化震源モデルによる検討」(貴堂)、「超高層RC造集合住宅を対象とした振動解析モデルの検討と曲げ変形を考慮した汎用多質点モデルの構築」(村田)

2018年度防災リスク管理コース発表会

奨励賞(M1)・優秀賞(M2) **受賞**

神戸寛史(M2) 日野浦雄高(M2)

佐藤弘樹(M2) 貴堂峻至(M1)

学生賞 **受賞**

神戸寛史(M2) 貴堂峻至(M1)

大学院横断コースである防災リスク管理コースの発表会で、英語でのプレゼンテーションに対しM2には優秀賞、M1には奨励賞が与えられ、永野研究室では4名の受賞がありました。神戸君と貴堂君は学生賞とのW受賞です。



【左奥から、永野先生、大宮先生、日野浦君、佐藤君】
【左手前から、貴堂君、神戸君】



【左から、菅原君、貴堂君、片岡君、村田君】

2018年度永野研究室 発表論文等成果 その①

【超高層集合住宅関連・査読論文】

日野浦雄高, 永野正行, 鈴木賢人, 肥田剛典, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡: 超高層集合住宅を対象とした非線形多質点系モデルの構築と2016年熊本地震時の地震応答推定, 日本建築学会構造系論文集, 第83巻, 第749号, pp.963-973, 2018.7

村田将一, 永野正行, 日野浦雄高, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡: 超高層RC造建物を対象とした振動解析モデルにおける曲げ変形成分の統計的分析と汎用多質点曲げせん断モデルの構築, 日本建築学会技術報告集, 第25巻, 第59号, pp.91-96, 2019.2

永野正行, 渡辺真伍, 日野浦雄高, 鈴木賢人: アンケート調査に基づく2016年熊本地震時の超高層集合住宅の揺れと室内被害, 日本建築学会技術報告集, 第24巻, 第57号, pp.565-570, 2018.6

佐藤航平, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: RC造建物を想定した非線形床応答スペクトルの略算法, 日本建築学会技術報告集, 第24巻, 第57号, pp.679-684, 2018.6

北堀隆司, 永野正行, 田沼毅彦, 小田聡, 日野浦雄高, 金子知宣, 肥田剛典, 鈴木賢人: 超高層集合住宅を対象とした振動解析モデルの統計的分析と各種入力地震動に対する非線形応答特性および動特性評価, 日本建築学会技術報告集, 第24巻, 第57号, pp.661-666, 2018.6

Nagano, M., Suzuki, K., Hinoura, Y., Watanabe, S., and Hida, T.: Indoor Damage and Floor Response of High-Rise Residential Buildings During the 2016 Kumamoto Earthquake Based on a Questionnaire Survey, 16th European Conference on Earthquake Engineering, ID10213, Thessaloniki, Greece, 2018.6

Hinoura, Y., Nagano, M., Suzuki, K., Kitahori, T., Tanuma, T., and Oda, S.: Earthquake-Response Characteristics of Super-High-Rise Residential Buildings During the 2016 Kumamoto Earthquake and the Effect of Two Consecutive Large Input Motions, 16th European Conference on Earthquake Engineering, ID11048, Thessaloniki, Greece, 2018.6

Uebayashi, H., M. Nagano, K. Kamae and H. Kawabe: Simple Evaluation Index for Structural Damage of High-Rise Reinforced Concrete Buildings Due to Long-Period Strong Ground Motion, Journal of Japan Association for Earthquake Engineering, Vol. 18, No.3, 2018 (Acceptable Secondary publication)

【地震動関連・査読論文】

貴堂峻至, 永野正行, 引間和人: 2016年熊本地震の震源近傍における強震動の再現解析と空間分布, 日本建築学会構造系論文集, 第84巻, 第757号, pp.373-383, 2019.3

【非構造関連・査読論文】

高橋和久, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: 2次系の相関係数に関する基礎的研究, 日本建築学会構造系論文集, 第84巻, 第756号, pp.161-170, 2019.2

沖佑典, 石原直, 岡部俊, 鈴木賢人, 永野正行, 岩田善裕: 面外曲げを受ける65形軽量鉄骨下地間仕切壁の耐震性, 日本建築学会技術報告集, 第24巻, 第58号, pp.935-939, 2018.10

Kambe, H., Ishihara, T., Yamashita, K., Suzuki, K., and Nagano, M.: Evaluation of Seismic In-plane Shear Deformation of Grid-Type System Ceilings in Japan, 16th European Conference on Earthquake Engineering, ID11051, Thessaloniki, Greece, 2018.6

Yamashita, K., Ishihara, T., Kambe, J., Suzuki, K., and Nagano, M.: Mechanical Properties and Required Seismic Deformations of Step Parts in Steel-Furring Suspended-Ceiling Systems in Japan, 16th European Conference on Earthquake Engineering, ID11043, Thessaloniki, Greece, 2018.6

【木造関連・査読論文】

Ogawa, K., Suzuki, K., Tanaka, R., Komiyama, M., Masaki, Y. and Nagano, M.: Shear Performance of a Dynamically Loaded Wooden Wall, World Conference on Timber Engineering (WCTE2018), S668, August 20-23, 2018, Seoul, Korea

【免震構造関連・査読論文】

飛田喜則, 永野正行, 北村春幸, 山内豊英: 強震記録に基づく傾斜基盤を有する地盤上に建つ免震建物の地震応答解析と杭応力評価, 日本建築学会構造系論文集, 第84巻, 第756号, pp.149-159, 2019.2

Tobita, Y., Nagano, M., Kitamura, H., Sato, T., Suzuki, K., Matsuda, Y., Yamauchi, T., Uebayashi, H.: Dynamic Characteristics of a Seismically Isolated Building on Soil with Inclined Bedrock using Ambient Vibration and Strong Motion Records, 16th European Conference on Earthquake Engineering, ID10507, Thessaloniki, Greece, 2018.6

【日本建築学会大会(東北大学)・発表】

岡部俊, 石原直, 沖佑典, 鈴木賢人, 永野正行: スタッドの断面サイズ・形状による軽量鉄骨下地間仕切壁の曲げ剛性・強度に関する考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 1543, 材料施工, pp.1085-1086, 2018.9.4-9.6

山下圭吾, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: 低層に拵がりを有するタワー型建築物の層せん断力係数に関する一考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 I, 20046, pp.91-92, 2018.9.4-9.6

高橋和久, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: 多層建物における2次系の相関係数に関する一考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 20511, 構造 I, 20511, pp.1021-1022, 2018.9.4-9.6

神戸寛史, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: 左右の非対称性を有する浮き上がり1層構造の自由振動に関する実験と解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21011, 構造 II, pp.21-22, 2018.9.4-9.6

小江優斗, 永野正行: 最大応答値を発生させる地震動の最小継続時間に関する検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21015, 構造 II, pp.29-30, 2018.9.4-9.6

日野浦雄高, 永野正行, 鈴木賢人, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡: 超高層RC造集合住宅の設計用振動解析モデルに基づく汎用多質点せん断棒モデルの構築, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21042, 構造 II, pp.83-84, 2018.9.4-9.6

村田将一, 永野正行, 鈴木賢人, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡: 超高層RC造集合住宅を対象とした振動解析モデルの検討と曲げ変形を考慮した汎用多質点モデルの構築, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21043, 構造 II, pp.85-86, 2018.9.4-9.6

飛田喜則, 西浦遼, 上林宏敏, 鈴木賢人, 永野正行: 常時微動計測に基づく傾斜基盤を有する地盤上に建つ免震建物の動特性(その1 測定概要とスペクトル), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21091, 構造 II, pp.181-182, 2018.9.4-9.6

西浦遼, 飛田喜則, 上林宏敏: 常時微動計測に基づく傾斜基盤を有する地盤上に建つ免震建物の動特性(その2 卓越振動数における振動モード), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21092, 構造 II, pp.183-184, 2018.9.4-9.6

田村彩女, 永野正行, 田沼毅彦, 小田聡: 観測記録に基づく超高層集合住宅の上下方向の動的相互作用と地盤ばねの推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21097, 構造 II, pp.193-194, 2018.9.4-9.6

中澤博志, 佐藤利昭, 御子柴正, 永野正行, 中川幸洋: 長期間利用した大型振動台の性能検証実験ー ロッキング挙動が再現性に与える影響の検証ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21122, 構造 II, pp.243-244, 2018.9.4-9.6

上林宏敏, 大堀道広, 長郁夫, 新井洋, 吉田邦一, 萩原由訓, 野畑有秀, 林田拓己, 岸俊甫, 関口徹, 小嶋啓介, 元木健太郎, 中川博人, 野口竜也, 鈴木晴彦, 高橋広人, 土田琴世, 永野正行: 微動を用いた速度構造推定のベンチマークテスト(その1 大阪堆積盆地モデルを用いた速度構造推定), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21307, 構造 II, pp.613-614, 2018.9.4-9.6

2018年度永野研究室 発表論文等成果 その②

川島学, 永野正行, 鹿嶋俊英: 強震観測記録に基づく水平・上下振動特性に及ぼす地盤の影響とその経時変化, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21245, 構造Ⅱ, pp.489-490, 2018.9.4-9.6

大堀道広, 上林宏敏, 長郁夫, 新井洋, 吉田邦一, 萩原由訓, 野畑有秀, 林田拓己, 岸俊甫, 関口徹, 小嶋啓介, 元木健太郎, 中川博人, 野口竜也, 鈴木晴彦, 高橋広人, 土田琴世, 永野正行: 微動を用いた速度構造推定のベンチマークテスト(その2 大阪堆積盆地モデルを用いた位相速度推定), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21308, 構造Ⅱ, pp.615-616, 2018.9.4-9.6

片岡卓也, 永野正行: 生駒断層帯を地表断層と想定したときの大阪平野における地盤増幅特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21314, 構造Ⅱ, pp.627-628, 2018.9.4-9.6

渡辺眞伍, 永野正行: 超高層集合住宅を対象としたアンケート調査における自由記述欄の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21332, 構造Ⅱ, pp.663-664, 2018.9.4-9.6

田代信雄, 永野正行, 引間和人, 植竹富一: 中間断層を考慮した鉛直横ずれ断層の連動破壊 一応力が深さに依存する場合一, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21359, 構造Ⅱ, pp.717-718, 2018.9.4-9.6

永野正行, 貴堂峻至, 引間和人: 2つの破壊過程による2016年熊本地震本震時の震源近傍における強震観測記録の再現と深部・浅部破壊の影響一その1 波形インバージョン解析結果に基づく検討一, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21363, 構造Ⅱ, pp.725-726, 2018.9.4-9.6

貴堂峻至, 永野正行, 引間和人: 2つの破壊過程による2016年熊本地震本震時の震源近傍における強震観測記録の再現と深部・浅部破壊の影響一その2 特性化震源モデルによる検討一, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21364, 構造Ⅱ, pp.727-728, 2018.9.4-9.6

鯉淵将成, 永野正行, 松田頼征, 北村春幸: 免震建物の擁壁衝突による上部構造の長スパン梁の上下振動励起に関する検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21415, 構造Ⅱ, pp.829-830, 2018.9.4-9.6

山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 松田頼征, 飛田喜則: 杭等免震建物の側柱部に作用する変動軸力が積層ゴムの力学特性に及ぼす影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21435, 構造Ⅱ, pp.869-870, 2018.9.4-9.6

涌井栄治, 菅原和正, 鈴木賢人, 小川一真, 田中亮磨, 真崎雄一, 永野正行: 粘弾性制震装置を付加した木造軸組架構の力学的挙動と簡易評価法 その1 木質制震架構の面内せん断実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22032, 構造Ⅲ, pp.63-64, 2018.9.4-9.6

菅原和正, 涌井栄治, 鈴木賢人, 小川一真, 田中亮磨, 真崎雄一, 永野正行: 粘弾性制震装置を付加した木造軸組架構の力学的挙動と簡易評価法 その1 木質制震架構の面内せん断実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22033, 構造Ⅲ, pp.63-64, 2018.9.4-9.6

小川一真, 鈴木賢人, 田中亮磨, 菅原和正, 真崎雄一, 永野正行: 初期損傷と繰り返し載荷を受けた面内耐力壁の劣化挙動 その1 初期損傷を与えた面材壁の繰り返し載荷実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22234, 構造Ⅲ, pp.467-468, 2018.9.4-9.6

田中亮磨, 鈴木賢人, 小川一真, 菅原和正, 真崎雄一, 永野正行: 初期損傷と繰り返し載荷を受けた面内耐力壁の劣化挙動 その2 構造特性の変化, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22235, 構造Ⅲ, pp.469-470, 2018.9.4-9.6

中村正人, 岡野創, 日下彰宏, 永野正行, 衣笠秀行: 耐震壁の修復期の評価に関する予備的検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23011, 構造Ⅳ, pp.21-22, 2018.9.4-9.6

【日本地震学会(ビッグハレットふくしま)・発表】

片岡卓也, 永野正行: 大阪府北部地震のシミュレーション解析による大阪平野における浅部表層地盤の影響, 日本地震学会講演予稿集2018年度秋季大会, S24-P13, 2018.10.9-11

貴堂峻至, 永野正行, 引間和人: 2016年熊本地震の震源近傍記録再現のための特性化震源モデル, 日本地震学会講演予稿集2018年度秋季大会, S14-P17, 2018.10.9-11

【第15回日本地震工学シンポジウム(仙台国際センター)・発表】

上林宏敏, 大堀道広, 長郁夫, 新井洋, 吉田邦一, 鈴木晴彦, 高橋広人, 萩原由訓, 野畑有秀, 林田拓己, 岸俊甫, 関口徹, 小嶋啓介, 元木健太郎, 中川博人, 野口竜也, 土田琴世, 永野正行: 微動を用いた速度構造推定のベンチマークテスト(その1 大阪堆積盆地モデルを用いた速度構造推定), 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.2698-2704, 2018.12.7-8

大堀道広, 上林宏敏, 長郁夫, 新井洋, 吉田邦一, 鈴木晴彦, 高橋広人, 萩原由訓, 野畑有秀, 早川崇, 林田拓己, 横井俊明, 岸俊甫, 関口徹, 小嶋啓介, 凌甦群, 元木健太郎, 中川博人, 野口竜也, 土田琴世, 永野正行: 微動を用いた速度構造推定のベンチマークテスト(その2 大阪堆積盆地モデルを用いた位相速度推定), 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.2705-2712, 2018.12.7-8

護雅史, 丹裕也, 宮本裕司, 永野正行: 2016年熊本地震で被災した庁舎建物の建物振動特性と杭基礎被害との関係, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.601-610, 2018.12.7-8

小江優斗, 永野正行: 擬似速度応答スペクトルを用いた地震動の最小継続時間に関する検討, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.1500-1507, 2018.12.7-8

川島学, 永野正行, 北村春幸, 井口道雄: 強震観測記録に基づく免震建物の水平, 上下振動特性と動的相互作用効果, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.2046-2055, 2018.12.7-8

中野尊治, 宮本裕司, 永野正行, 護雅史: 2016年熊本地震での益城町庁舎における地盤応答と非線形相互作用, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.1834-1843, 2018.12.7-8

貴堂峻至, 永野正行, 引間和人: 薄層法による断層極近傍における理論地震動計算の精度検証, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.1434-1443, 2018.12.7-8

王欣, 司宏俊, 縹織一起, 永野正行, 党紀: 2018年台湾花蓮地震における建物被害の要因分析, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.2970-2978, 2018.12.7-8

片岡卓也, 永野正行: 大阪平野における西大阪及び東大阪地域の浅部, 深部表層地盤を考慮した3次元構造による地盤増幅特性, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3279-3287, 2018.12.7-8

神戸寛史, 石原直, 永野正行: 左右の非対称性を有する1層浮き上がり構造の振動特性に関する模型実験, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3342-3351, 2018.12.7-8

村田将一, 永野正行, 田沼毅彦, 小田聡: 超高層RC造建物の汎用多質点系モデルを用いたパルス波入力時の非線形応答特性, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3372-3378, 2018.12.7-8

山下圭吾, 石原直, 永野正行: 低層に拡がりを持つタワー型建築物の地震力分布に関する研究, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3379-3388, 2018.12.7-8

日野浦雄高, 永野正行, 田沼毅彦, 小田聡: 観測記録とアンケート調査に基づく超高層集合住宅における長周期地震動階級の適用性に関する基礎検討, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3426-3434, 2018.12.7-8

西浦遼, 永野正行, 飛田喜則, 上林宏敏: 傾斜基盤上に建つ免震建物の微動計測に基づく振動性状に関する検討, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, pp.3475-3484, 2018.12.7-8

第5回なみの会(10月5日・土曜日) 講演会・懇親会のお知らせ

第5回なみの会(東京理科大学工学部建築学科地震工学系研究室-井口・永野研-OB/OG会)を以下の通り開催いたします。今年度は、野田キャンパスに新しく竣工された新7号館(予定)を会場として、講演会と懇親会の2部形式で実施いたします。本年度は幅広い年代から多数のOBをお呼びして、業務等の近況を報告していただきます。

【日時】 2019年10月5日(土) 講演会:午後2時00分～午後4時30分

懇親会:午後5時00分～午後6時30分

【場所】 講演会 東京理科大学野田キャンパス 新7号館 ホール(6F)

(予定) 懇親会 東京理科大学野田キャンパス 新7号館 カフェテリア(1F)

千葉県野田市山崎2641 運河駅より徒歩8分

【講演予定者(敬称略)】

井口研OB／古河司(福島県建築安全機構, 1980院)／粟飯原功一(竹中工務店, 1985学)／佐藤立(大林組, 1988院)／小林弘典(イン・オリジン, 1993院)／山本耕司(竹中工務店, 2003院)／小山直文(小山直文構造設計, 2005院)／佐藤利昭(九州大学, 2007院)／永野研OB／青木拓哉(センクシア, 2012院)／山根義康(構造計画, 2015院)／渡邊藤一郎(日本製鉄, 2016院)／成島慶(鴻池組, 2017院)／日野浦雄高(清水建設, 2018院) 司会:淵本正樹(清水建設, 1991院)



研究会・懇親会の出欠の返事をメール(なみの会事務局, iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp)もしくは同封のハガキにて、9月15日までにお知らせください。懇親会だけでも構いません。運河駅も大きく変わっています。これまで参加していない方も、ぜひ新しい野田キャンパスにお越しください。



講演会および懇親会の場所

新7号館外観

なみの会事務局 iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学工学部建築学科
永野研究室 (担当:永野正行, 涌井栄治, 淵本正樹, 王欣)

編集担当 永野正行
M2村田将一, M2岡部俊